

本校研究主題

自ら学び 豊かな関わりの中で 伝え合い 高め合う児童の育成  
～単元構成の工夫・必然性のある学習課題の設定・対話の場の充実を通して～

第5学年竹組 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 越智 政之

1 日時・場所 令和4年11月9日(水) 第2校時(9:35～10:20) 自教室

2 単元名 めざせ! 助け合いの町金子 自助・共助でつながる笑顔の輪

3 単元の目標

災害時に自分と家族の命を守るための備えや避難所での生活をより良くする工夫を調べる活動を通して、自助・共助の取組や方法、重要性を理解し、災害が起こったとしても助け合い、自他共に笑顔で過ごすことができる地域社会の実現に向けて、自分のできることに生かせるようにする。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 災害発生時や避難所生活で自分や家族の命・笑顔を守り、支え合って困難な状況を乗り越えるために、自助・共助の重要性を理解している。 ② 自助や共助について目的や意図に応じた適切な方法で情報収集している。 ③ 災害への備えや助け合いの仕方など自分の行動の変容は、自助と共助について探究的に学んだことによる成果であると気付いている。	① 災害が起こったときに命や笑顔を守れないかもしれないという現状から課題を設定し、見通しを持っている。 ② 課題を解決していくために、適切な手段で情報を集め、必要に応じて情報を取捨選択している。 ③ 自分や家族の命や笑顔を守り、自分も周りも笑顔になる避難所を目指して、複数の情報を比較したり分類したりしながら解決に向けて考えている。 ④ 伝える相手や目的、意図に応じて自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	① 課題意識を持って、自分なりの方法を工夫したり、他者と協働したりしながら探究活動に取り組もうとする。 ② 災害時に命を守り、助け合うことで自他共に笑顔で過ごすことができる地域社会を目指す中で、自己を見直し、異なる考えを尊重しようとする。 ③ 災害時に命と笑顔を守ることができる地域を目指して、自分の身近なところでの課題解決に取り組もうとする。

5 指導観

(1) 児童について

児童はこれまでの生活科や総合的な学習の時間で、学校内、学校の周り、地域へと対象を広げながら、人や物と関わる体験・経験を積み重ねている。昨年度の総合的な学習の時間「笑顔いっぱい助け合いの輪ができる ハッピーな町へ」では、障がいのある方との交流会をする活動を通して身近にあるバリアに気づき、解消するために自分自身にできることを考え、学んだことをポスター等にまとめて伝え合った。学んだことを生かす場面を設定し、経験させたかったが、感染症予防の観点から実施には至らなかった。

本学級の児童（27名）は、与えられた課題に真面目に取り組むことができる。大三島少年自然の家のキャンプファイヤーに向けての準備や当日の取組から、「みんなでやると何か楽しい」という経験をした児童もいる。しかし、自ら課題を見付けたり、試行錯誤しながら課題解決をしたりできる児童は少なく、頭では分かっているが、行動が伴わず消極的なところがある。それは、積極的に多くの友達とコミュニケーションを取り、周囲を巻き込んでいくことへの苦手意識と、何かを成し遂げたという経験が少ないからではないかと考える。そこで本学級の児童には、自助や共助に関する体験・経験を通して「身近な人のために」や「みんなで一緒にする」という思いを持たせて学習に取り組ませたいと考えた。

## (2) 単元構成について

ESDカリキュラム「笑顔を守る 安心・安全の町に」の中心となる本単元を組むに当たっては、道徳科の教材「代われるものなら」（「愛」ある愛媛の道徳-小学校5、6年生-愛媛県教育委員会）を用い、阪神淡路大震災で我が子を亡くした母親の手記から考えるということを中心とした。児童は学習を通して「悲しい思いをする人が出ないようにしたい」「いつ起きるか分からない災害に備えないと」「みんなで助け合って、みんなで助かるというのが大切」などの思いを持っていた。単元の計画では「家族や友達、地域の人々の命と笑顔を守りたい」「安心安全な町にするために、助け合いができるようになりたい」などの意見が出てきた。そこで、単元名に児童の思いを入れ「めざせ！助け合いの町金子 自助・共助でつながる笑顔の輪」と設定し、大きく分けて自助と共助について学んでいくことを決めた。

一次の自助の学習「災害から家族の命と笑顔を守るために」では、最初にゲストティーチャーから平成16年の台風による新居浜市の水害についての話を聞いた。児童は「まずは自分たちが助かることが大切」というメッセージを受け取り、自助の取組について調べた。調べたことの発表を聞いて、我が家に合っている取組なのかを再検討することで取組に対する思いを高めた。「この取組で家族の命と笑顔を守りたい」という思いを持って家族を説得し、実行することで安心感を得たり身近な人から感謝される経験をしたりする児童が多かった。

二次の共助の学習「安心・安全で笑顔の避難所をめざして」では、自助の取組で安心感は高まったが、一緒に住む高齢者や幼い弟妹、そして自分たちも避難所での生活に不安があることに気づき、誰もが安心して笑顔で過ごすことを目指し、避難所や避難所生活での共助にポイントを絞った。避難所運営ゲーム（以下HUG）や避難所体験で感じた自分や家族の心配や、昨年度に関わりを深めた障がいがある方だったらここが不安なのではないかということ解消するために、「5竹できることリスト（仮）」を作成していく。自分一人ではできないことも、友達と力を合わせるといろいろなことができる、勇気が湧くということに気付かせたいと考えた。

三次では自助・共助の学習で学んだこと、考えたこと、経験から、助け合いの町金子を実現し、笑顔の輪を広げていくためにできることを話し合い、実行していく。自分たちが他者の役に立っているという満足感や有用感を味わわせるとともに、文字にすると普段行っているような何気ないことが、非常時に大切になってくるということにも気付かせたい。

## (3) 指導について

多くの児童は災害や防災の学習に対して重要だと感じている。しかし、本当に起きたときにどうすればいいのかという切迫感を持って学習に取り組むことは難しいと考える。そこで経験者の話を聞いたり、実際に体験したりするという機会を取り入れることで、学ぶことへの思いを高めていきたい。また、新居浜市防災士ネットワークに協力を仰ぐことで専門的な活動や体験を行い、児童の思いの実現に向けて、具体的にイメージできるようにしたい。

児童はHUG、避難所体験を終えての話し合いで、配慮や支援が必要な人が抱える不安と、それに対応することの難しさ、自分自身も不安な中で何ができるのかという思いを持っている。それらを

更に具体的にするために、配慮や支援が必要な人になりきって不安なことを話し合う機会を設ける。立場としては高齢者、幼児、妊婦、障害のある方（視覚障がいのある方、聴覚障がいのある方）、車椅子使用の方、ペット連れの方、病気や怪我の方、外国の方などが予想される。話し合いを受けて一人一人が考えたできることを、座標軸シートを用いて整理させた後の授業が本時である。

本時では、「5竹できることリスト」完成を目指してグループを中心とした話し合いを行う。前時までに作成した座標軸シートをグループで一つの座標軸シートにまとめていく。なお、避難所の中だけでの共助とすると、できることが限られてくる恐れがあるため、避難所生活を送る上で必要なことを呼び掛けるというようなことも共助として許容することとしている。

本時において、対話の場を充実させる指導の工夫は以下の3点である。

- 1 思考ツール、ICTによる可視化
- 2 5竹できることリストを作成するという課題設定
- 3 教師が話し合いの中に入る。

これらを通して対話を促進させることで、本校の研究主題である「自ら学び 豊かな関わりの中で伝え合い 高め合う児童の育成～単元構成の工夫・必然性のある学習課題の設定・対話の場の充実を通して～」に迫りたい。

## 6 指導計画

次	主な活動	知	思	態	評価方法
1 家族の命と笑顔を守るには (23)	○ 金子の町をどんな町にしたいか話し合い、活動名を決める。(4)		①	①	ワークシート・観察
	めざせ！助け合いの町金子 自助・共助でつながる笑顔の輪				
	○ 平成16年の新居浜市における水害の被害状況について知る。(ゲストティーチャー) (1)	①		②	感想用紙・観察
	○ 笑顔にしたい相手や方法について話し合い、学習の計画を立てる。(4)		①	②	ワークシート・観察
	・ 自分や家族の命と笑顔を守るための方法について調べる。(3)	②	②	③	観察・きなこもちカード(以下 <sup>㊦</sup> カード)
	・ 調べたことをグループで友達と伝え合う。(2)		④	②	観察・ <sup>㊦</sup> カード
	・ 友達の発表から我が家の安心度を診断し、自分の家に合った対策を選ぶ。(1)	①	③	②	ワークシート・観察
	・ 選んだ対策を家庭で実践してもらうためのプレゼン資料を作る。(5)		④	③	成果物・観察
	・ 家庭で取り組んだことの報告会を行う。(1)	③	④	②	ワークシート・観察
	・ マイタイムラインを作成する。(ゲストティーチャー) (2)	①		①	成果物・観察
2 避難所をめぐりながら 安心・安全で笑顔の	○ 自分や家族の命と笑顔を守るための学習を振り返って話し合い、今後の活動の見通しを持つ。(2)	③		②	観察・ <sup>㊦</sup> カード
	・ 避難所について知る。(1)	②		①	観察・ <sup>㊦</sup> カード
	・ HUG、避難所体験を行う。(3)		②	①	感想用紙・観察
	・ 体験したことを基に、心配なことや不安なことを話し合う。(3)	①		②	観察・ <sup>㊦</sup> カード
	○ 不安や心配を減らし、安心・安全で笑顔の避難所にするた				

(17)	<p>めに、5竹のできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害時、避難所で心配や不安が強い人の立場になりきって、具体的な心配や不安を聞き合う。(1)</li> <li>・ 不安を解消したいと思った立場の人について、対策や解決策を調べる。(4)</li> <li>・ 5竹できることリスト(仮)を作成するために、それぞれの解決策を話し合う。(本時)(1)</li> <li>・ 出た意見をまとめて、5竹できることリストを完成させる。(2)</li> </ul>				<p>① 観察・(き)カード</p> <p>② ② ① 観察・(き)カード</p> <p>③ ② 観察・(き)カード</p> <p>③ ② 観察・(き)カード</p>
3 (12)	<p>○ 笑顔の輪がつながる、助け合いの町金子にするために、どのようなことを発信していけばよいかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今までの活動をまとめたり、資料を作ったりして発信するための準備を行う。</li> <li>・ 笑顔の輪がつながる、助け合いの町金子にするためにできることを発信する。</li> <li>・ これから自分たちにできることについて、話し合っって考えを深め、活動のまとめをする。</li> </ul>	①	②	①	<p>観察・(き)カード</p> <p>④ ③ 成果物・(き)カード</p> <p>③ ③ ワークシート・観察</p>

## 7 本時の指導

### (1) 目標

避難所生活を送る上で様々な人が安心・安全・笑顔で過ごすための解決策をグループで話し合い、条件に沿って分類・比較し、「5竹できることリスト(仮)」へ入れる項目を見付けることができる。

### (2) 本時の主な言語活動

「5竹できることリスト(仮)」を作るために、それぞれが考えてきた取組や対策をグループや全体で話し合う。

### (3) 準備物 タブレット 座標軸

### (4) 本時の展開

学習内容	時間	主な発問(○)と予想される児童の反応	○指導上の留意点◎評価
1 本時の課題と学習の流れを確認する。	5	<p>○ 「5竹できることリスト(仮)」を作るときに大切なことは何でしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達と協力したらできることを考える。</li> <li>・ 自分も相手も笑顔になれるかどうか大切。</li> </ul>	○ グループでの話し合いで生かせるよう、条件を確認する。
「5竹できることリスト(仮)」へ入れる項目を、グループで話し合っって見付けよう。			
2 個人で考えたことを、グループで共有し話し合う。	20	<p>○ 個人が考えてきたできることを、グループで話し合っって分類しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎朝声を掛けたり、ラジオ体操をしたりすることは僕たちもできると思うな。おばあさんのために水くみをした小学生の経験談もあったよ。</li> </ul>	<p>○ これまでの体験や確認した思いなどを背面に掲示し活用できるようにする。</p> <p>◎ 避難所生活を送る上で様々な人が安心・安</p>

<p>3 全体で話し合う。</p>	<p>10</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 声を掛けたり、ラジオ体操をしたりするのは友達と協力して、僕たちでもできそうだね。だけど、学校の外への水くみは危険な場合もあるから。大人と一緒に行くのがいいかも。</li> </ul> <p>○ 各グループの中で共通しているものや、できごとリストに入れておいた方がいいと思うものは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 困っていることはないですかと声を掛けることは共通していて、子どもだけでもできそう。</li> <li>・ 金子小の避難所はスリッパがなさそうだから、僕たちがスリッパを作れるようになっておいたり、作り方を呼び掛けたりするのもいいね。</li> </ul>	<p>全・笑顔で過ごすための解決策をグループで話し合い、条件に沿って分類・比較し、「5竹できることリスト(仮)」へ入れる項目を見付けることができる。</p> <p>○ 全体でまとめていく際の手掛かりになるように、全体で話し合う場を設ける。教師も話し合いに参加し、条件に目を向けさせるような言葉掛けに努める。</p>
<p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>5</p>	<p>○ 新居浜市防災士ネットワークの〇〇さんのお話を聞きましょう。</p> <p>○ 「きなこもち」で今日の学習を振り返りましょう。</p> <p>き… 大切なことを意識して、グループでまとめることができたよ。</p> <p>な… 〇〇さんの取組が子どもでも簡単にできるなと思ったよ。</p>	<p>○ 本時の学びや自分の変容に気付くことができるように、本校の振り返りの合言葉「きなこもち」を使って振り返りを行う。</p>

## 8 事後の指導

本時で話し合ったことを基にして、できごとリストを完成させる。二次の成果物として三次で活用したり、発信したりできるようにする。

## 9 授業評価の視点

### (1) 授業構成本力

児童が調べたことを座標軸で可視化し、再度グループで共同して座標軸にまとめていくという話し合いの場は、対話を促進し、課題の解決に有効であったか。

### (2) 授業実践力

教師が話し合いに参加し、条件に目を向けさせたり質問したりすることは、児童の考えや対話を深めることにつながったか。